

ヒューマンケアが防犯講習を開催 - 宮前警察署を招待 -



ご利用者様、職員の安全のために

入居できなかったことによる逆恨みや、ご利用者様同士のトラブルの発展、遺産がらみの家族間トラブル、施設内への不法侵入などによる事件事故が報じられている昨今、ヒューマンヒルズ初山、ヘルパーステーション青葉ひまわり、ラポール菅生など介護事業を行っている株式会社ヒューマンケアは、高齢者施設への不法侵入者への対応や予防への知識や意識を高めることで、ご利用者様、そして職員の安全を確保することを目的に、8/28(水) 宮前警察署生活安全課防犯少年係の方をヒューマンヒルズ初山に招待して防犯講習を開催、講習にはヒューマンケアの常勤非常勤職員だけでなくご利用者様も一緒に参加した。

講習は、講師の方が不審者役となり実際合った事例を組み合わせた形で行われ、どう風に対処すべきか、シミュレーションすることから始めた。

- 不審者は施設へづかづか入り込み一方的に職員へクレームをまくしたてエスカレートしていき刃物を出してしまう。
- 対して職員は、不審者の行き先をふさぎながら不審者に声掛け説得。応じず興奮する不審者に対し警備会社や警察に通報すると警告、刃物を出してきたので近くにある椅子の脚を使って動きを制止した。

想定した訓練や話し合いを

警察からの指導によると、入館手続きのない人 (ID がついていない人) は不審者と扱う等、予防線を張っておくことで、差し迫った状況になる前に対応できるよう準備して

おき、施設に正当な手続きをせずに入ってきた人には毅然とした対応をし、110 番通報するのをためらわないこと。ただし、通報してから警察官が到着するまで 5 ~ 10 分かかるので、・間合いを取り、・指と手が出ているか (武器など持っていない) 確認し、・複数対応 (話を聞く役、通報役、制圧担当など役割分担) を意識し、警察官が到着するまでの時間を稼ぐことが大切だという。不審者が暴れて制止を聞かない場合は、取り押さえる等対応することで、ご利用者様職員の安全を第一に考えた行動をとるよう、指導いただいた。

また、ご利用者様の錯乱、依存症、認知症などが原因でご利用者様が暴れてしまい、職員や他のご利用者様に危害を加えてしまう恐れがあるようなケースでも、通報すれば法律に基づく保護をしてもらえる。自殺願望が強くて暴れてしまう場合も、通報することを推奨 (自傷他傷の恐れ = 保護の対象) している。

こういった予防として、ご利用者様の状態や家族間のトラブルなどを把握することでトラブルを想定し、火種は身近にあることを意識する。施設周囲の除草などすることで陰を作らない、施設見回り記録をつける、防犯カメラを設置するなど、狙われづらい環境づくりも効果的だという。

今回、宮前警察署を招いた防犯講習をしていただいたが、日ごろから想定して備えることの大切さを再認識できた。今後、防犯意識をさらに高めるべく、講習を続けることで、ご利用者様、職員が安心して過ごせる施設づくりを目指していきたい。